

会 議 録

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	企画政策課
会議名 (審議会等名)	令和4年度 第1回 嬉野市総合戦略推進委員会		
開催日時	令和5年1月24日(火) 15:30～17:00		
開催場所	嬉野市塩田公民館2階 視聴覚室		
会議の公開の可否	㊦ ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可 の場合はその理由			
出席者	委員 (敬称略)	川原英正、戸田順一郎、国上政勝、白濱幸広、西川潤一、 深村頌子、大門光	
	事務局	総合戦略推進部長、企画政策課長、副課長、主任	
	その他		
会議の議題	① 委嘱状交付・新委員紹介 ② 委員長あいさつ ③ 総合戦略（令和3年度）事業進捗状況・効果検証について ④ 地方創生関係交付金事業について ⑤ その他		
配布資料	① 令和4年度第1回嬉野市総合戦略推進委員会次第 ② 第2期嬉野市総合戦略推進委員会 委員名簿 ③ 嬉野市まち・ひと・しごと創生総合戦略＜令和3年度事業進捗・効果検証シート＞ ④ 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金（R2 事業一覧） ⑤ 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金（R3 事業一覧） ⑥ 地方創生推進交付金事業（令和3年度事業）		
審議等の内容	別紙のとおり		

審 議 等 の 内 容

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	企画政策課
議 題	1. 総合戦略（令和3年度）事業進捗状況・効果検証について 2. 地方創生関係交付金事業について		
内 容	1. 事務局より説明。委員質問・事務局回答、委員の意見等 2. 事務局より説明。委員質問・事務局回答、委員の意見等		
審議経過	事務局	(R3 年度事業進捗状況・効果検証 基本目標①嬉野市に住みたい・行きたい“ひと”の流れをつくる。についての説明) KPI の説明 ◎交流人口【観光客数】⇒コロナの影響により減少。R2 からは10万人程度増加。 ◎人口の社会減(5カ年累計)⇒R3 は流出が少なかった。 ○宿泊観光客数(全体)⇒コロナの影響により減少。R2 からは5万人程度減。 ○外国人観光客数(宿泊)⇒コロナの影響によりほぼゼロ。 ○市・県が支援した移住者数⇒目標値上回る。好調。 ○文化ホール利用件数⇒R2 から100件程度増。やや持ち直す。 ○スポーツ施設利用件数⇒増加傾向。R1 に市中央体育館(U-Spo) 会館の影響。 ○スポーツ合宿参加者数⇒コロナの影響により減少。 ○UD ガイド登録者数⇒R2 より12名減。 ○ボッチャ競技参加人数⇒R3 は持ち直し、増加傾向。 ○ふるさと応援寄附金の寄附者数⇒寄附額とともに過去最高を記録。	
	委員	7 ページのユニバーサルデザインガイド登録者数のところなんですけど、どうしてこんなに R2 と R3 の実績(12 名減)に差がついてたのかっていうのと、あとこれ、どうすれば登録できるようになるのか？あまり市民の方に広まってないと思うので、何かそこも含めて今後増やすための施策っていうか認知度を高めるための政策とその育成するためのっていう部分も何か今後具体的に作っていったらいいのかなと思いました。	
	事務局	UD ガイドの登録については、バリアフリースターセンターさんが担われており、登録に関しましてもバリアフリースターセンターさんで行ってもらっています。R2 実績の時点でどこまで新しい情報を反映できていたのか分かりませんが、R3 報告時点では12名減ということでした。 今後も連携を深め、まずは認知してもらうことが大事ですので推進していきたいと考えています。	
	議長	すいません私から一点確認させてください。 4 ページ目の市・県が支援した移住者の評価指標。目標よりも上回ってて喜ばしいことかなと思うんですけども。 どういう理解すればいいのか、これいろんな制度を使って入ってこられた方の合計、これが純粋に移住者が増えたと捉えていいんですか？	

事務局	はい。
議長	だとするとかなり喜ばしいというか、いい数字だというふうに読めるんですけどもそのあたりどういうふうに捉えておられるのか。
事務局	継続して移住については力を入れているところで、移住してこられる方向けの、補助メニューは充実させています。 地域おこし協力隊の隊員さんにも移住関連の業務に従事してもらっており、移住相談会に参加して嬉野市の移住に関する PR 活動をしているところです。 やっぱりそういったところに来られる方は本気度が高いというか地方に移住したいという興味が強い方が来場され、相談の中から移住に繋がるっていうふうなケースもあります。 そういったところで市として力を入れて推進しているところでもありますので非常に良い数字がでているなというところであります。
委員	(4)文化の薫るまちづくりの推進について。佐賀・嬉野ゆかりの人物にスポットをあてたイベント等の開催が近年できていないとのことですが、理由はございますか？
事務局	佐賀・嬉野ゆかりの方の招聘が難しく事業化が困難という理由です。しかしながら、物凄く有名というわけではないが、表現活動を継続されているゆかりの人物はいらっしゃると思いますので、今後はぜひそのような方に表現の場の提供ができればと考えます。
委員	鍋野和紙等の伝統工芸も伝統工芸として PR するわけではなくてアートと結びつける形で、小さい子供にも触れやすい形で入口をちょっと広げてやって気づいたら身近にある様な形が結果として伝統工芸としても継承されていくように思う。
事務局	周りの協力を得ながら進めていきたいと思います。
事務局	(R3 年度事業進捗状況・効果検証 基本目標②嬉野市で働きたい“しごと”をつくる。についての説明) ◎新規雇用者数【5 カ年累計】⇒0→58 人。単年では順調。 ○企業誘致による新規雇用者数⇒0→40 人。単年では順調。 ○市内企業支援マッチング支援による新規雇用者数⇒0。 ○市が支援した起業件数⇒2→5 件。累計 7 件。順調。 ○観光消費額⇒コロナの影響により減少。H30 の半額。 ○商店街の空き店舗率⇒悪化傾向。 ○うれしの茶販売高⇒R2 から若干持ち直す。H30 より 85,000 千円程度減少。 ○海外販路開拓に向けた商談成立件数⇒26 件。オンラインを中心に急増。東南アジア。 ○海外販路開拓によるうれしの茶出荷量⇒微増。商談件数は増加しているが、出荷量は伸びていない。少量の取引が多数。 ○うれしのブランド野菜作付面積⇒目標を上回る。 ○酒造用米の作付面積⇒前年並み。目標値には若干届いていない。 ○農村ビジネスサポート事業⇒目標を上回る。 ○任意営農組合の法人数⇒増減なし。

		○トレーニングファームによる市内での就農者数⇒増減なし。 ○青年就農者数⇒若干伸びている。トレーニングファームの好影響。
	委員	(4) うれしの茶の生産振興販路・需要開拓～に関してお話させていた だきたいと思います。JR 九州様の旅館に関する事業プロジェクトが立 ち上がっておりまして、嬉野市の方にですね。 既に名前は嬉野やどやというネーミングで八十八と記載します。趣旨 といたしますか、コンセプトといたしますか、佐賀県産の農産物を取り扱 いたいと。 そこでその旅館で提供する料理に食材として調達できないものは、 さらに長崎県とか福岡県とか、近隣に広げていく。基本的には佐賀県 産を利用したいということでお茶なりお米なりお野菜なり、そういう ことですね。 現在、協議をしている真っ最中で令和 5 年の秋口に開業予定です。そ ういうことで現在、その責任者の方と料理長様とかなり頻繁に会議 をしております。(JA の窓口として) あといろいろな異業種の方と 話し合いをされていらっしゃる。 結果的には農業振興に一役買いたいという支援でありましたので、ち よっとこの場をお借りしましてご紹介させていただきました。
	委員	農地を相続したくないので相続放棄したいといった相談が多い。 農地を売りたい人と買いたい人のマッチングがうまく行っていないよ うに思います。農業委員会さんの方であっせん等行ってもらっている とは思いますが。
	事務局	農業委員会にも「農地バンク」というものがあるが、上手く機能して いない模様です。空き家バンクの利用者で農業をやりたい方もいらっ しゃったりしますが、農地法の定め（農地を取得可能な最低限の農地 面積 5,000 m²）により一般の方の農業参入が難しい。このような状況 もあって農地が余っている状態です。 この件について農業委員会に尋ねてみたところ今春ぐらいに農地法の 改正が予定されていて農地取得のための下限面積 5,000 m²が撤廃され る見込みと聞いています。 今後はちょっと展望が明るくなってくるのかなと思います。 嬉野市も空き家、空き地バンクということでやっていますので、農地 の登録も可能です。先般、相談があった案件で農地を相続したが、非 農家なので農地を売りたい方がいらっしゃって結果的に近所の方が買 おうということで話がつきました。このような事例もありますので条 件が良ければ売れていくのかなとも思います。
	委員	山の中にある農地で、現況は山林だけど畑だから許可がないと売れな いと言われたことがありました。市レベルでどうにかできる話ではな いのか？
	事務局	これも農業委員会の方の許可の話になるので直接私達っていうわけ ではないんですけども、基本的には完全に山に帰ってしまってるもの は農地に戻すのはかなり難しいのでそういった場合は農業委員会の方 に言わせると持ち主の方から農地じゃなくなりましたという非農地の 申請を上げてもらって、それで認定をしてから売却をするというふう な流れになるそうです。
	委員	昨日ちょっとご相談した案件は 20 年間農地じゃないということを証

		明しなきゃいけないということでした。欲しい方はいらっしゃるんですけどそこが妨げとなっている。
	事務局	本来から行けば地区の農業委員さん達が現状把握をしていらっしゃるだろうというところで判断されているみたいですが、農業委員さん達も全て把握できるわけではないので、そのあたり国として制度の改正も必要なのかなという気はします。
	委員	農地を作りたい人にいけるような感じになればと思います。
	事務局	(R3 年度事業進捗状況・効果検証 基本目標③嬉野市で結婚・出産・子育てしたい“まち”をつくる。についての説明) ◎出生数⇒340 人(R2、R3 累計)。年間 200 人程度を目標としている。減少傾向。 ◎婚姻数⇒285 組(R2、R3 累計)。良いペース。 ○出会いの場におけるカップル成立数⇒5 組(累計)。コロナ禍で参加者が低調。 ○結婚支援事業登録者数⇒R2 より 15 名減。婚姻数は増加傾向にあるため、登録が必要なくなったという見方もできるかも。 ○訪問指導・健康相談件数⇒減少傾向。R2 の 6 割程度。 ○電子母子手帳アプリユーザー数⇒増加傾向。 ○病児保育事業⇒増加傾向。 ○ファミリー・サポート・センター事業⇒増加傾向。目標値を上回る。 ○日頃から家事に関わる男性の割合⇒74.6%(R2 アンケート未実施)。前回調査(H28)より 5.9%増加。目標値に対しては 10%程度下回る。 ○全国学力調査⇒国語小全国平均以上。算数小平均以下。中全教科全国平均以下。基準値(R1)を下回る。 ○県学習状況調査⇒小 6 算数、中 1 国語、社会、中 2 理科以外は県平均以上。基準値(H30)を下回る。 ○小中学校の ICT 環境整備⇒100%整備。 ○特別支援教育支援員の配置⇒増減なし。
	委員	(1) 出合いをサポートする結婚支援に関してですが、婚姻数は増えて、結婚支援事業の登録者数は減っていることを考えれば、ご自身で婚活やってらっしゃることが伺えます。結婚しても必ずしも子供を授かれるという訳ではないので、こうした予算を例えば不妊治療の助成に回したりとかできればと思います。
	事務局	結果として婚姻数は伸びている状況を考えれば、市として直接婚活を応援する部分もなくなってきている感じもします。そういった意味では結婚後の、先ほど仰られた不妊治療助成だったり手の行き届きにくい部分のケアに充ててもいいのかなという気はします。
	議長	確かに若い世代の婚姻数は増えているかもしれないが、もう少し上の層、中高年層において婚姻まで至っていないといったデータを見た記憶はあります。そこを行政で後押しする、何かできるのではないかとといった議論をした記憶もありますが、その辺の分析等がありますか。
	事務局	令和 3 年度だけを見れば、このままいけば目標値の 600 組を超えenと思います。以前の数字を見ればかなり落ち込んだ時期もあったかと思

		いますので、これをもって結婚機運が高まっているといった判断はしにくい部分もあると思います。問題としては、40代、50代の未婚者が多くなっているというのは現実的にありますので、その辺を行政でもやっていくべきなのかなとは思っています。 あと出生数ですが、国としての命題でもありますので、連携して一緒に対応していかなければならないと思います。 不妊治療の件についても国も積極的に、市としても積極的に取り組んでいる部分でもあります。保険適用になる部分もあったり、そういう情報も聞いていますので何か支援できる部分は探しながらやっていく形で進めたいと思います。
	委員	具体的な取り組みについて案があるという訳ではないですが、子供が産まれる数が減っているというのは皆さん心配するところだと思います。「女性が輝くまちづくり」を推進しているのならこの辺もう少し力を入れてやってもらっていいんじゃないかと思います。こういった部分の対策も目立たないし、「子ども産んでみようかな」というところに繋がるような施策に期待したい。
	事務局	そういった部分での危機感がありますので、結婚して、子どもを産み、育てるという部分だけでなく女性の活躍する場を広げていく事業も始まっています。色々な方に参加いただいて、協議いただいて、政策に移していくことが狙いですので、この事業を活用し政策に反映できればと思います。
	議長	女性が輝くと掲げるのであれば、他の市町以上の取組をお願いいたします。
	事務局	(R3年度事業進捗状況・効果検証 基本目標④嬉野市で安心して暮らしたい“地域”をつくる。についての説明) ◎地域コミュニティ事業への住民参加数⇒R2より微増。基準値(H30)の6割程度。 ◎65歳以上人口に占める要支援・要介護者の割合⇒横這い。基準値(H30)より悪化。17.32%(H30)17.57%(R3) ○地域コミュニティへの市事業委託数⇒8事業。増減なし。 ○消防団員数⇒微減。女性団員数は増加。41(H30)48(R3)。 ○防災メール登録者数⇒R2から微減。重複登録の整理を行ったことも影響か。 ○市内人身事故発生件数⇒81件(R2)68件(R3)。基準値からするとおよそ半減。目標を上回る。 ○特定健康診査受診率⇒R2より微減。基準値(H30)は上回る。 ○特定保健指導受診率⇒R2より微減。減であるが目標値は上回る。 ○胃がん検診⇒横這い。 ○子宮がん検診⇒R2より微減。基準値(H30)を下回る。 ○乳がん検診⇒R2より微減。基準値(H30)を下回る。 ○大腸がん検診⇒R2より微増。基準値(H30)を下回る。 ○肺がん検診⇒R2より微増。基準値(H30)を下回る。 ○「高齢者居場所づくり」による設置数⇒横這い。基準値(H30)は上回る。 ○認知症サポーター数⇒R2より微減。基準値(H30)は上回る。 ○市内公共交道路線数⇒増減なし。目標値。

	委員	特定健康診査の受診率が下がっている要因は？
	事務局	以前は、受診率向上に向け戸別訪問を行っていましたが、コロナ禍による訪問機会の減少、また出控え等も影響したのかなと思います。
	委員	ご提案ですが、個別対応も大変だと思いますので企業等と提携して企業から各社員に啓発する働きかけるとか、企業としても責任があるところだと思いますので。 あとは、市内企業 HP のバナーに掲載するとか。そういったことで啓蒙活動につながると思います。そういった形での協力依頼をすることも検討してみてもどうか。 郵送だけだと見ない人は見ないので、情報が色々なところから 2 本、3 本と入ってきて、「それじゃやってみようかな。」という風になる場合もあると思います。 次第 4 地方創生関係交付金事業について ① 地方創生臨時交付金事業（新型コロナウイルス感染症） 事前配布していた資料（R2 繰越事業、R3 事業一覧）について質問を受け付ける。⇒質問なし。 ② 地方創生推進交付金事業 事前配布資料に基づき R3 事業（観光商工課所管 2 事業）について質問を受け付ける。⇒資料についての質問なし。R4 事業（新幹線・まちづくり課所管未来技術実装事業、広報・広聴課所管女性が輝くまちづくり事業）について口頭で説明。
	議長	R4 事業についての資料はない？
	事務局	事業実施中ということもあり準備しておりませんでした。
	議長	R3 検証とは関係なく、資料としてあってもよかったと思う。
	事務局	申し訳ございませんでした。
		※その他、今後のスケジュールについて説明。年度内にもう一度委員会を開催し（3 月中旬～下旬）、次年度に向けた改善計画について協議予定。
その他	なし	